

小中一貫教育目標	「自ら学び 考え 自立した行動ができる『きさ』の子ども」の育成	経営理念	○ミッション なりたい自分の夢や目標の実現のために、八幡のひと・こと・ものとの対話を通じた多様な体験活動を通して、ふるさと八幡への郷土愛を育むとともに、変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。	A 適切である B 概ね適切である C あまり適切でない D 全く適切でない (N 判定できない)
学校教育目標	やさしく かしこく しなやかな 児童の育成		○ビジョン ・表現する力の育成 ・グローバルマインドの育成 ・小規模・複式校での学びの積極的な発信	

評価計画						自己評価						学校関係者評価		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方法	評価指標	目標値	達成値		達成度	評価	分析(達成状況)	評価	記述	
							中間	最終						
確かな学力		確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	基礎的・基本的な知識・技能の定着	①自己の目標を設定する。自分の弱点(間違えた問題)を自主ノートで復習する。 ②「公正に個別最適化された学び」の導入により、学び直しをさせる(ドリルタイム等)。	・単元テスト学年平均点が目標値を上回る学年の割合(中間) ・三次市学テで全国平均を上回る学年の割合(年度末)	80%	100%	100%	100%	A	・個人差はあるものの単元テスト・三次市学テともに目標値を上回った。目標達成のために、間違えた問題は徹底してやり直して習得を図った。また、理解に時間がかかる児童に対しては、個別にスモールステップで基本問題に取り組みさせることにより習得を促した。応用問題の克服までには至らなかったが、計算・漢字等の基本問題は全員が目標値を上回ることができた。その要因は「たとえできなくても、全力を尽くすのは当たり前」という学校の風土にあると思われる。			
			「表現力」の育成	①読書朝会・読み聞かせ等を通して、読書習慣を身に付ける。 ②各種作品コンクールに年間で一人6本以上取り組む(習字・俳句・作文・写生・科学研究など)。	児童アンケートによる達成率	80%	ほぼ100%	100%	100%	A	・色々な団体が読み聞かせに来て頂くが、その都度熱心に聞き入っている。また読書朝会等で読書活動を奨励した。 ・全員が6本以上の応募を行った。その結果、科学研究では「学校賞」を頂いた。鈴木三重吉賞でも全クラスが高い評価をいただいた。作品が新聞に掲載されたり、様々な会場で展示されたりすることで、子どもたちも自信をもつことができた。			
豊かな心		主体的に表現しようとする児童生徒の育成	自己有用感の向上	①オペレッタ、八幡子ども太鼓、やわた寄席の努力ぶりを全校の前でしっかり評価する。(児童同士・教職員) ②「福祉・ふるさと教育」に取り組む、地域に学び地域に返していく活動を充実させる。 ③行事や委員会などで一人一人が活躍する場を設定し、自己肯定感を高める取り組みを充実させる。	児童アンケート総項目の平均値	85%	①100% ②100% ③100%	100%	100%	100%	A	・オペレッタ・八幡子供太鼓・やわた寄席に向けて計画的に練習を積み上げ、保護者からも例年以上の高い評価を頂いた。八幡寄席は、2回目にもかかわらず、地域の方の参加も多く、アンケートでは表現力の高さに高い評価をいただいた。 ・感謝の会で「ふるさと教育」でお世話になった方を招き、学習の成果をお返しする予定である。 ・年間、幾多の舞台に立ち、その都度、新聞・TV等で紹介されることで、自己肯定感を高めることができた。		
			規範意識の醸成	①小中連携合同研修で道徳の授業を公開し、道徳と行事をタイアップさせる。 ②ステージ発問の導入を意識し、道徳の授業を充実させる。 ③「あいさつ・返事・はきものそろえ」を奨励し、その成果を評価する。地域・来校者の方にも進んで気持ちの良いあいさつをする。	道徳アンケートで肯定的に回答する児童の割合	90%	①取組中 ②90% ③100%	100%	100%	100%	A	・遠足での坐禅体験をもとに自作教材を作成し、小中合同研修会で授業を公開した。また、その教材を用いて他学年でも授業を行った。2回とも保護者に来校頂き「自己の生き様」を語って頂くことで、道徳的価値観を深めることができた。 ・また通信を活用し、学校行事と道徳的価値を結びつけた「吉き舎プログラム」を掲示することで、本校のカリキュラム・マネジメントの一端を町内の保・小・中・高の先生方に、発信することができた。 ・高学年を中心に日常的に規範意識が高いので、教師がいるいないにかかわらず、気持ちの良いあいさつ・返事ができている。たまた児童同士でトラブルが起きても、高学年を中心に、自分たちで解決していくという校風が育っている。		

健やかな体	健康の保持増進と体力の向上	生活習慣の確立	①学期に1回、個人面談を行い、自分の健康課題に気付かせる。 ②テレビ・ゲーム・インターネット利用の実態把握を行い、保護者に啓発する。	・個人面談実施率 ・生活アンケートでの改善した達成率	100%	100%	100%	100%	A	個人面談は、学期終わりに毎回実施しているので、今後も継続していきたい。ゲーム時間は、夏休みと比べて、冬休みの方が守れなかった児童が多かった。児童のモチベーションが下がってしまったように感じられるので、定期的な指導が必要である。また、夏休みに比べて冬休みの方が利用時間が増えてしまった児童が多かった。これは虚偽の時間を書いていた児童が、正直に書いた結果であった。このように自分の生活を見直すことができたのは一つの成果だと思われる。。		
		体力の向上	①合同体育・全校体育を実施し他学年と切磋琢磨することで体力の向上をめざす。 ②頑張り表や記録証を活用し、自己目標を設定させる。	児童アンケート「自分で進んで体力づくりに取り組んだ」を肯定的に回答する児童の割合	90%	100%	100%	100%	A		「体育や休憩時間に自分から進んで運動に取り組んだ」と答えた児童は17名（100%）、「マラソン練習をがんばった」と答えた児童は16名（94%）であった。マラソン大会は歴代記録が更新されるなど、練習の成果が発揮されていた。	
信頼される学校	地域・保護者から信頼され期待される学校づくり	地域とともにある学校づくり	①毎月2回以上、便りや通信、HP等で子供の様子を具体的に発信する。 ②家庭・地域と一体となった防災教育、ゲームの弊害教育を進める。	保護者アンケート肯定的評価の総項目平均値	90%	92%	90.7%	91%	A	12月に実施した保護者アンケート肯定的評価の総項目平均値は90.7%であった。「学校は、ネット依存等の今日的課題を保護者とともに解決しようと努めている。」の評価が他に比べて低いので、懇談会等の場を通じて理解をしていただけるよう努める。		
		働き方改革の推進	①教職員の意識改革を進めるための研修の実施 ②一斉退校日の完全実施	勤務時間外在校時間が月45時間以下の教職員	100%	100%	100%	100%	A	「勤務時間外在校時間が月45時間以下の教職員の割合」は、10月～1月の期間は100%であった。		

【自己評価】 A：達成度100以上（目標達成） ， B：80≦達成度<100 （ほぼ達成） ， C：60≦達成度<80（もう少し） ， D：達成度60以下（できていない）